

Information ご利用案内

★プラネタリウム投影開始時刻(1回の投影時間は、約50分間です。)

	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	第5回目
平日	9:50 (団体専用)	11:10	13:10	14:30	15:50
土・日・祝日	9:50	11:10 (キッズプラネタリウム)	13:10	14:30	15:50

※1月5日(日)の第2回目11:10は、一般投影となります。
 ※1月14日(火)~3月14日(金)は、プラネタリウム座席取り替え工事のためプラネタリウムはご覧いただけません。

★休館日
 毎週月曜日・第2火曜日・年末(12月25日(水)~31日(火))
 ただし、月曜日が国民の休日・祝日となる日は開館し、翌日が休館となります。※12月24日(火)は、開館します。
 ※1月16日(木)・17日(金)と2月4日(火)・5日(水)は、臨時休館します。

★開館時間
 午前9時30分より午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
 ※2月1日(土)・8日(土)・15日(土)・22日(土)は、午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

★年始の営業日時
 1月1日(水)~4日(土)午前11時~15時(最終入館は14時30分)
 ※1月1日(水)~1月3日(金)は、駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

★観覧料

	大人(高校生以下無料)
一般	700円
団体(30人以上100人未満)	630円
団体(100人以上)	560円
年間パスポート	2,000円

※年間パスポートは購入時から1年間、何度でもご利用いただけます。
 ※コンサートイベント等には別途料金が必要な場合があります。
 ※高齢者割引、身障者割引を行っています。
 ※1月1日(水)~1月4日(土)は、大人700円→500円となります。
 ※1月18日(土)~3月14日(金)は、大人700円→350円となります。

★駐車場
 普通自動車・マイクロバス(2時間まで):200円(約90台)(以降1時間超ごと100円)・バス(1回):1,500円(大型バス8台)

★施設概要
 日本標準時の基準となる東経135度子午線の通過地に建てられた「時と宇宙の博物館」です。プラネタリウムは現役では日本最古、稼働期間も日本一です。



- JR明石駅下車 東へ1km(徒歩約15分)
- 山陽電鉄丸前駅下車 北へ約0.2km(徒歩約3分)
- 車では国道2号線丸前交差点から北へ約0.2km
- 第二神明道路 大蔵谷I.C. から南西へ約3km
- 明石海峡大橋からは垂水出口を左折し、約6kmで国道2号線へ。国道2号線を西へ約4km(約20分)

時と宇宙の博物館 明石市立天文科学館

http://www.am12.jp/
 携帯サイト http://www.am12.jp/i/
 ツイッター @jstm135e

〒673-0877 兵庫県明石市人丸町2-6
 TEL.078-919-5000/FAX.078-919-6000
 e-mail: info@am12.jp



星空のレシピ

VOL. 316 2014 1月号

明石市立天文科学館 広報誌「星空のレシピ」 時と宇宙を88倍楽しむお料理MOOK

星空の

2014

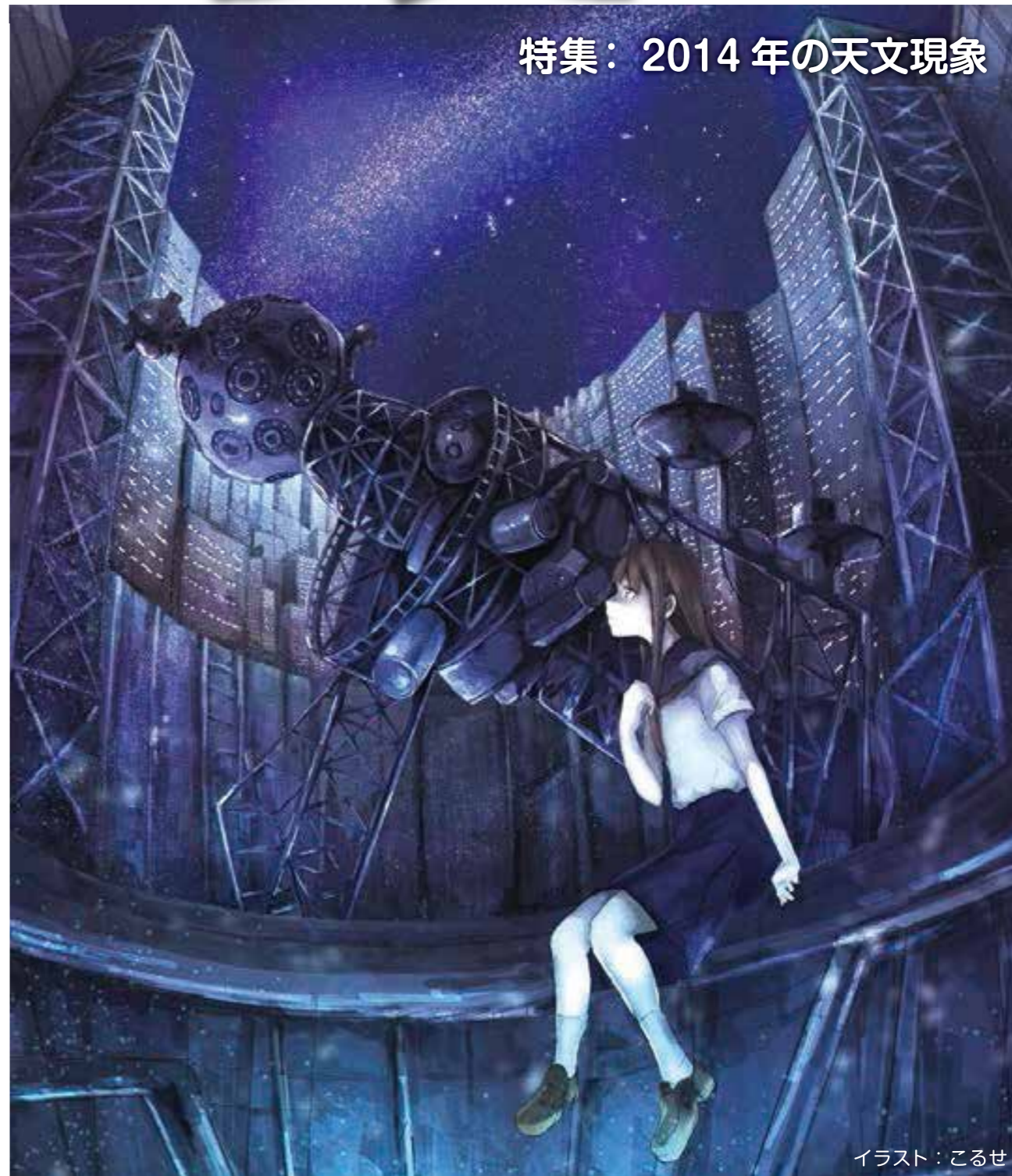
1

www.am12.jp

レシピ

VOL. 316

特集：2014年の天文現象



イラスト：こるせ

★ 星空のレシピ VOL.316 平成26年1月1日発行
 ★ 発行/明石市立天文科学館 〒673-0877 明石市人丸町2-6 TEL078-919-5000

SEIKO セイコー電波クロックは、いつでも「日本標準時」を刻みます。

セイコー電波クロックは、時刻合わせのいらぬ時計!

テレビや電話の時刻情報と同じ「日本標準時」をのせた電波を時計内のアンテナでキャッチ。毎日時刻を自動修正します。

電池を入れたら、自動的に時刻合わせがスタート!

電池をポンと入れるだけ。自動的に日本標準時に修正します。



掛時計 安心ライト 揺れを感知してライト点灯

暗闇での地震でも周囲を照らして心強い! さらに暗い時に時刻を読み取りやすい光センサーライトも搭載!



KX350B 税込14,700円
 直径300x67mm 1.3kg

掛時計 薄型ソーラープラス 光エネルギーで動くソーラー

明るい場所なら光エネルギーだけで動き続けます。すっきりとした、薄型タイプの掛時計です。



SOLAR⁺
 SF505W 税込26,250円
 直径315x36mm 1.2kg
 *グリーン購入法対応

掛時計 温度、湿度、カレンダー付 便利な情報一括表示!

正確な日付、曜日、時刻に加えて、お部屋や健康管理にも役立つ温度、湿度も表示。



KX352B 税込8,925円
 直径350x45mm 1.4kg

●掲載商品の価格はすべてメーカー希望小売価格です。●電波は地域、地形、建物、天候、時間帯、設置場所により受信できない場合もあります。●電波を受信してから次に受信するまでの間は、クオーツの精度で動作します。

2014年の天文現象

1月

- 1日 元旦
- 4日 しぶんぎ座流星群が極大
- 5日 小寒
- 6日 木星が衝
- 11日 金星が内合
- 20日 大寒
- 31日 水星が東方最大離角

2月

- 4日 立春
- 15日 金星が最大光度
- 19日 雨水
- 24日 海王星が合
- 26日 月と金星が接近(明け方の東空)

3月

- 6日 啓蟄
- 14日 水星が西方最大離角
- 21日 春分
- 23日 金星が西方最大離角

4月

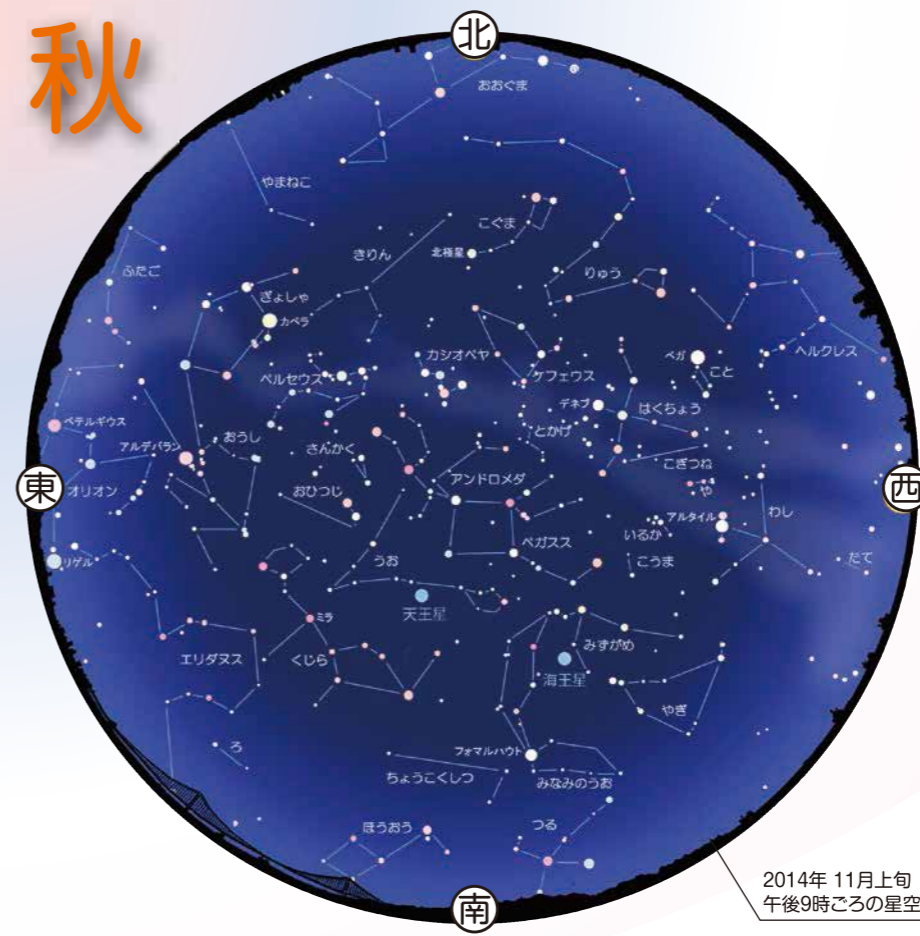
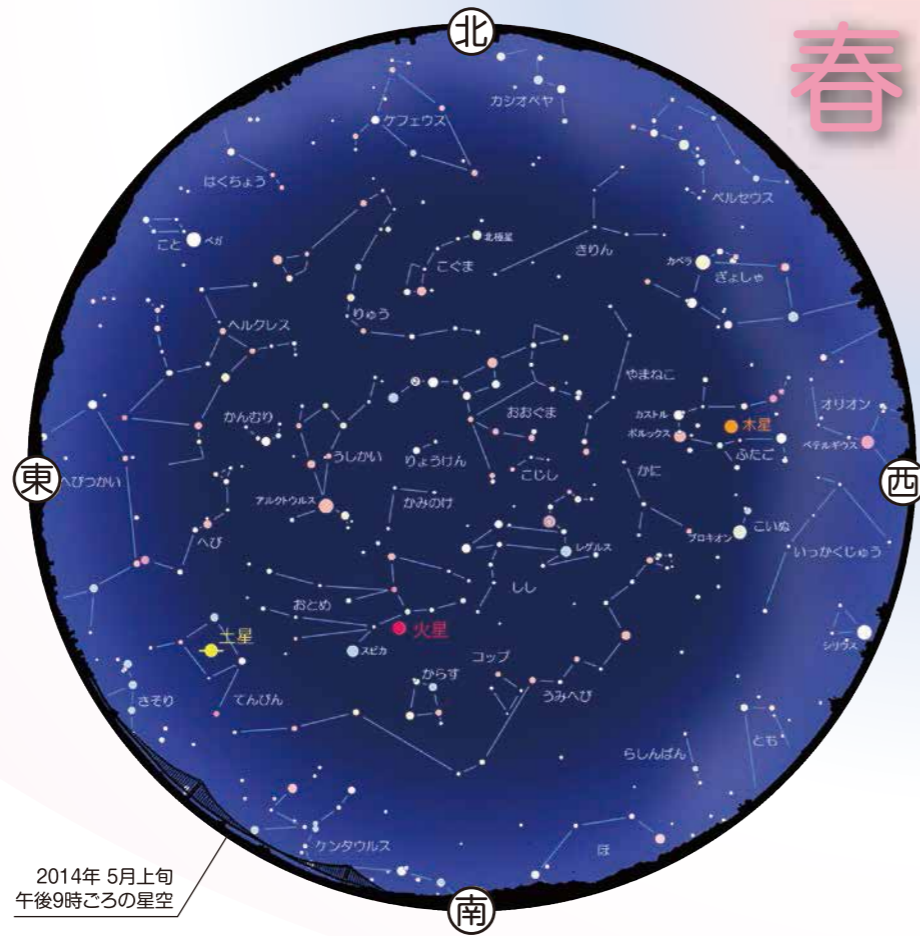
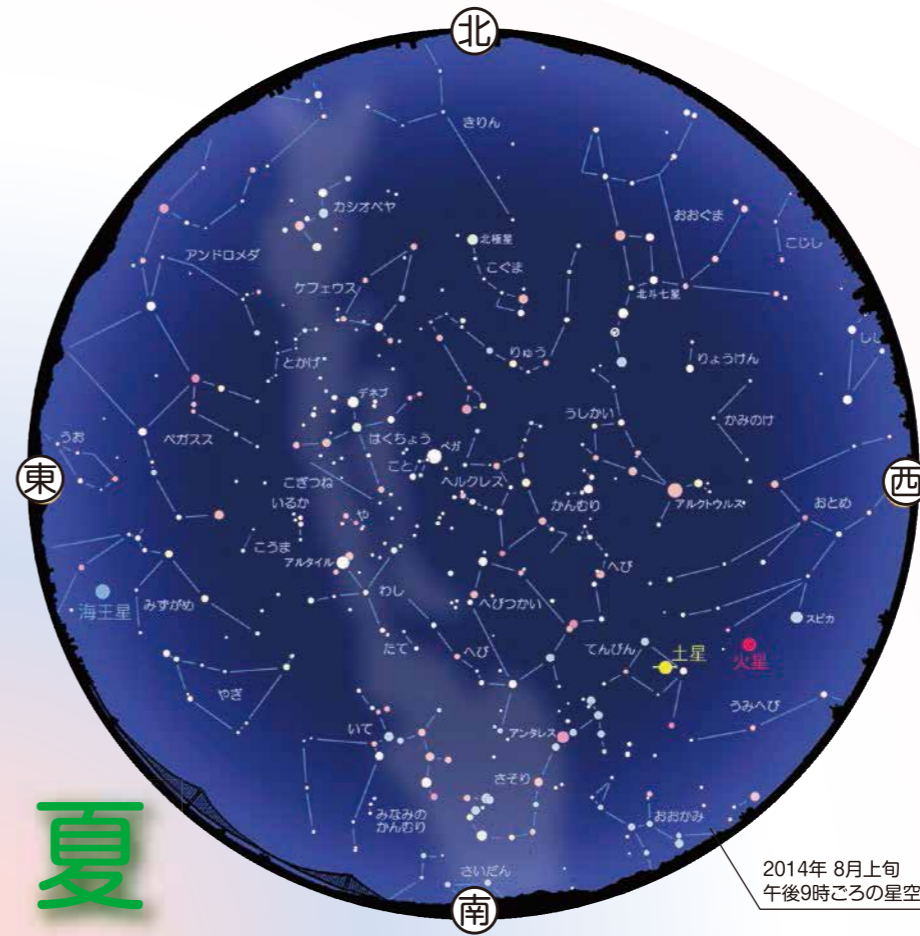
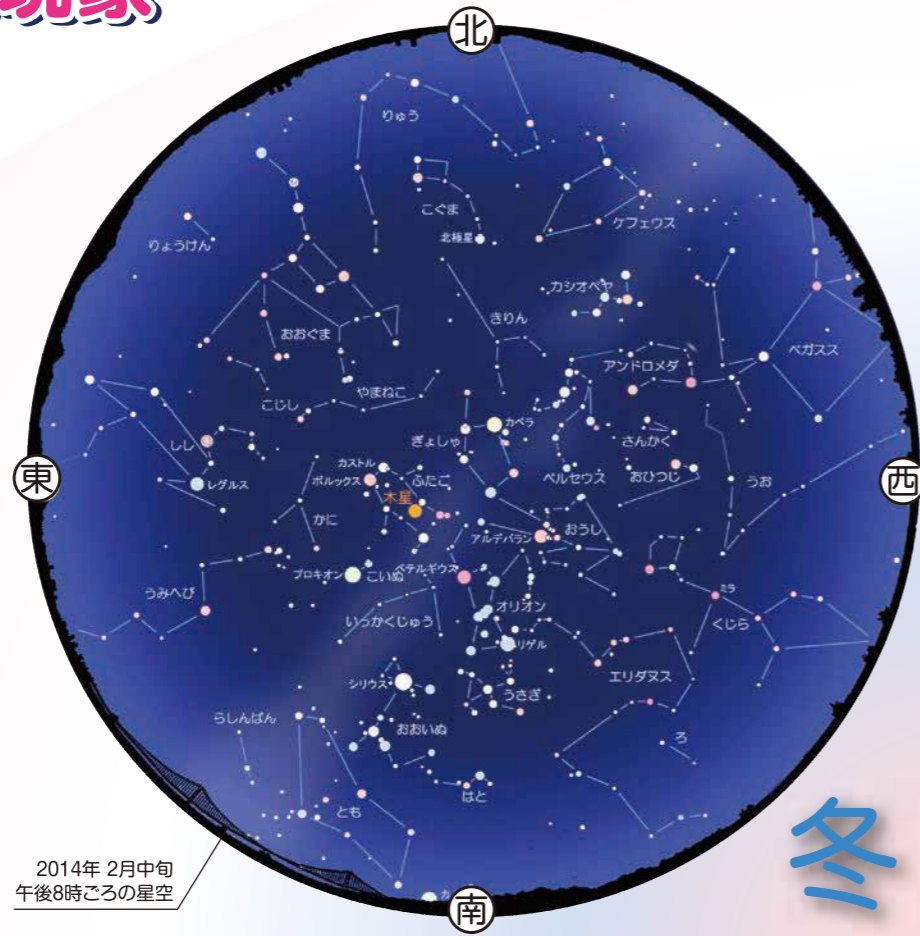
- 2日 天王星が合
- 5日 清明
- 9日 火星が衝
- 14日 火星最接近(0.618AU=9239万km)
- 15日 皆既月食
(日本では部分月食。東日本で月出帯食となる)
- 20日 穀雨
- 23日 こと座流星群が極大
- 29日 南極で金環日食(日本では見られない)

5月

- 5日 立夏
- 6日 みずがめ座η(エータ)流星群が極大
- 11日 土星が衝
- 21日 小満
- 25日 水星が東方最大離角

6月

- 6日 芒種
- 21日 夏至



冬 夏
春 秋

7月

- 7日 小暑
- 13日 水星が西方最大離角
- 23日 大暑
- 25日 木星が合
- 28日 みずがめ座δ(デルタ)南流星群が極大

8月

- 2日 旧七夕
- 7日 立秋
- 13日 ペルセウス座流星群が極大
- 18日 金星と木星が接近(明け方の東空)
- 23日 処暑
- 29日 海王星が衝

9月

- 8日 白露
- 8日 中秋の名月
- 22日 水星が東方最大離角
- 23日 秋分
- 28日 土星食(昼間)
(潜入12:07頃 出現13:21頃 月齢3.9)

10月

- 8日 寒露
- 8日 天王星が衝
- 8日 皆既月食
(食の始め18:15頃 皆既食の始め19:25頃
食の最大19:55頃 皆既食の終り20:25頃
食の終り21:35頃)
- 9日 りゅう座(10月)流星群(ジャコビニ流
星群)が極大
- 21日 オリオン座流星群が極大
- 23日 霜降
- 24日 北米で部分日食(日本では見られない)
- 25日 金星が外合

11月

- 1日 水星が西方最大離角
- 5日 おうし座南流星群
- 7日 立冬
- 12日 おうし座北流星群が極大
- 18日 しし座流星群が極大
- 18日 土星が合
- 22日 小雪

12月

- 7日 大雪
- 14日 ふたご座流星群が極大
- 22日 冬至

天文みどころカレンダー

● 望(満月) ● 下弦 ● 朔(新月) ● 上弦
衝 衝(真夜中に南中、観測好機) 西矩 西矩(日出時に南中) 東矩 東矩(日入時に南中) 東方最大離角 西方最大離角
× 合・内合・外合(太陽の方向にあり観測できない) ★ 流星群極大日 ◎ 食(天体がかくされる現象) ※ カレンダー上の星座名は、その時期に惑星が位置する星座を表わしています。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
月の暦	1日 8日 16日 24日 31日 ●●●●●	7日 15日 23日 ●●●	1日 8日 17日 24日 31日 ●●●●●	7日 15日 22日 29日 ●●●●	7日 15日 21日 29日 ●●●●	6日 13日 20日 27日 ●●●●	5日 12日 19日 27日 ●●●●	4日 11日 17日 25日 ●●●●	2日 9日 16日 24日 ●●●●	2日 8日 16日 24日 31日 ●●●●●	7日 15日 22日 29日 ●●●●	6日 14日 22日 29日 ●●●●		
水星	東方最大離角 1/31 夕方に見える	2/16 内合	西方最大離角 3/14 明け方に見える	4/26 外合	東方最大離角 5/25 夕方に見える	6/20 内合	西方最大離角 7/13 明け方に見える	8/9 外合	東方最大離角 9/22 夕方に見える	10/17 内合	西方最大離角 11/1 明け方に見える	12/8 外合		
金星	1/11 内合	いて座										10/25 外合		
火星	1/3 明け方に見える	おとめ座		4/9 4/14 一晩中見える 最接近	おとめ座		7/19 夕方に見える	てんびん座				さそり座	いて座	やぎ座
木星	1/6 一晩中見える	ふたご座		4/1 夕方に見える	おひつじ座				7/25 合	かに座			11/14 明け方に見える	しし座
土星	てんびん座		てんびん座		てんびん座		てんびん座		てんびん座			11/18 合		
天王星	うお座			4/2 合	うお座			7/9 明け方に見える	うお座		10/8 一晩中見える	うお座		
海王星	2/24 合		5/29 明け方に見える		5/29 明け方に見える		8/29 一晩中見える		8/29 一晩中見える			11/27 夕方に見える		
流星群	極大 1/4 しぶんぎ座流星群	1/4 しぶんぎ座流星群がオススメ!! 1/1に新月を迎え、月明りも少ない。ピークは、1/4未明するどいピークなので、タイミングを逃さず☆		極大 4/23 こと座流星群	極大 5/6 みずがめ座η流星群	極大 8/13 ペルセウス座流星群	極大 7/28 みずがめ座δ南流星群	極大 10/9 りゅう座(10月)流星群	極大 10/21 オリオン座流星群	極大 11/5 11/12 おうし座南流星群 おうし座北流星群	極大 11/18 しし座流星群	極大 12/14 ふたご座流星群		
その他			4/15 部分月食	4/29 金環日食(南極)					9/28 土星食	10/8 皆既月食	10/24 部分日食(北米)			

天文トピックス

4月14日 火星の接近

火星も地球も太陽の周りを回っていて、地球は365日で一周、火星は686日かけてゆっくりと一周しています。太陽から見て、地球と火星が同じ方向にそろったとき、地球と火星の間が近くなります。これが火星接近となります。火星接近は、約2年2か月ごとにあり、火星がとても明るく光ります。接近ごとに地球と火星の距離は違い、今回の接近距離は、9238.5万kmです。大接近となった2003年の最接近時には、5575.8万kmになりました。次の大接近は、2018年になります。



火星(ハッブル宇宙望遠鏡)
(©NASA)

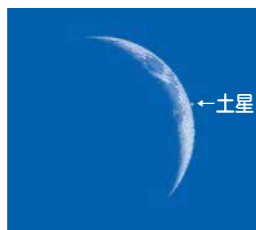
9月28日 土星食

この日、ほぼ全国で土星食を見ることができます。土星食とは、土星が月によって隠される現象です。お昼間の現象となるので、土星食を観測するためには天体望遠鏡が必要になります。

☆明石の見え方

潜入 … 12:07ころ

出現 … 13:21ころ 月齢3.9



ステラナビゲータにて作成

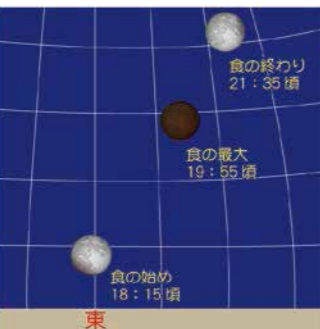
10月8日 皆既月食

皆既月食は、月全体が地球の影に隠れる現象です。ほぼ全国で、月食の開始から終了までを楽しむことができます。現象が始まる頃は、東の空低いところですが、欠け方が大きくなるにつれて高度が上がってきて観測条件が良くなります。



2011年12月10日の皆既月食
(撮影:鈴木康史)

月が地球の影に入っても完全な真っ黒にはなりません。皆既月食中の月は、赤銅色ともいわれ、赤っぽい色をしています。色の変化に注意して観察してみたいでしょうか？



☆明石の見え方

食の始め …… 18:15ころ

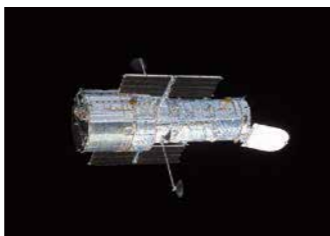
皆既食の始め … 19:25ころ

皆既食の終り … 20:25ころ

食の終り …… 21:35ころ

2014年 ハッブル宇宙望遠鏡運用終了

ハッブル宇宙望遠鏡は、口径2.4mの反射望遠鏡で、可視光だけでなく紫外線や近赤外線といった幅広い波長での観測を行い、様々な宇宙の姿を私たちに届けてくれています。1990年に打ち上げられてから、宇宙飛行士による幾度かの修理を経て、長年にわたり活躍してきましたが、2014年に運用を終了する予定となっています。なお、後継機としてジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡が計画されています。



ハッブル望遠鏡(©NASA)



ハッブル望遠鏡が撮影したソンプレロ銀河
(©NASA)

2014年 「はやぶさ2」打ち上げ

2010年、小惑星探査機はやぶさは、世界で初めて小惑星からのサンプルリターンに成功しました。はやぶさ2は、はやぶさの経験を活かした小惑星からの物質を地球に持ち帰るサンプルリターン・ミッションです。探査を行うのは、1999 JU3という小惑星で、表面の物質には有機物や水がより多く含まれていると考えられています。太陽系が作られる時に存在していた水や有機物を調べます。



(© 池下章裕)

惑星のみごろ

惑星の見え方は、太陽と惑星と地球の位置関係によって決まります。惑星が地球から見て太陽と同じ方向にあるときは、「合(ごう)」といって、その頃には見るできません。そして地球から見て太陽と反対側の方向にあるときは、「衝(しょう)」といって一晩中見る事ができます。P4~5の「天体のみごろ」の表をもとに、みごろの惑星を観察してみましょう。



軌道星隊 ショーンジャーの

カレンダーの

不思議?

てんもん 教えて キッズコーナー



あたらしいねんがはじまると、あたらしいカレンダーが家に飾られるね? カレンダーをよく見てみると不思議なことがたくさんあるぞ!



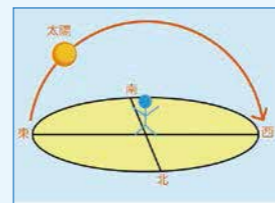
Q. カレンダーっていつできたの?

A. 今の私たちがつかっているカレンダーのはじまりは、6千年ほど前の古代エジプトにあるんだ。

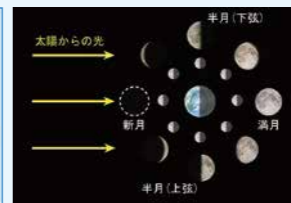
古代ローマでは、月の最初の日を「カレンダー」と呼んでいたんだ。これがカレンダーという名前の元になったといわれているぞ。古代エジプトのカレンダーは、古代ローマに伝わって、やがて世界へと広がっていったんだ。

Q. 年、月、日は、どこからきたの?

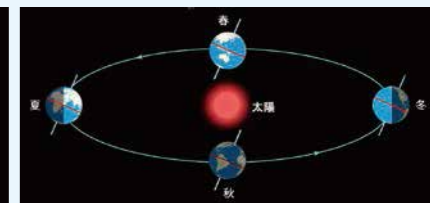
A. カレンダーは、もともと天体の動きを予想するために作られたものだ。太陽は毎朝必ず、東から昇り西にしずむよね?この繰り返しの周期を1日と呼んだ。そして、月は、約29.5日で満ち欠けを繰り返す。これが1ヶ月だ。また、太陽は季節によって昇る高さがちがうよね。この変化の周期である約365日を1年と呼んだんだ。



1日



1か月



1年



Q. どうして2月は28日までなの?

4年に1度、2月が29日まである年を「うるう年」という。地球は、太陽の周りを365日とおおよそ6時間まわっている。このため、1年を365日にとすると、4年で1日ずれてしまうんだ。これを調整するために、大昔1年の最後の月だった2月が、4年に1度1日増えることになったんだ。

A. 古代ローマでは、作物の芽が出はじめる春分の頃(3月)を、1年のはじまりと考えていたんだ。そのために、日にちの調整は1年のおわりの月である2月でおこなわれていたんだ。1か月が31日の月と30日の月の組み合わせは、時代とともに、どんどんと変わっていったけれども、そのたびに、たりない日にちを2月からとることで調整が行われ、2月は28日になってしまったんだ。

去年のカレンダーは、オッカレンダー。

参考文献…『暦の科学』(片山真人著/ベレ出版)

『暦をつくった人々』(デイヴィッド・E・ダンカン著・松浦俊輔訳/河出書房新社)

(ブラック星博士)

おしながき 今夜の星空献立表

夕焼けパンダ



この写真は、今年10月12日に当館長尾館長が撮影した夕日の写真です。館長によると秋分の日以降の瀬戸内海に沈む夕日を撮影していたそうですが、アンテナがじゃまをして写真のようなユーモラスなシルエットになりました。写真を天文科学館のツイッターで紹介したところ、神戸新聞の記者さんの目に留まり、夕刊一面で紹介され、連続写真はインターネット動画サイト Youtube で2万件以上閲覧され、TV でも紹介されるなど大変な話題になりました。アンテナと重なってまるでパンダのようになったことから、「パンダ夕日」とか「夕焼けパンダ」などと呼ばれています。どのような条件でこの写真は撮影できるのでしょうか？

NTT のアンテナは明石市立天文科学館から西に 1400m 離れたところにあります。太陽の視直径 0.5 度=0.0087 ラジアンとして、アンテナの幅が 1400m×0.0087=12m の大きさであれば太陽とほぼ同じサイズになります。NTT 西日本兵庫支社に問い合わせたところ、アンテナの横幅が 12m で、計算通りでした。また、パンダの目にあたる丸いパラボラアンテナの直径は 4m ということでした(とても親切に回答してくださいました。ありがとうございます)。撮影位置が 1m ずれているとこのような見事な「パンダ」にはならなかったと思われる。

また、太陽の位置は日ごとに変わります。同じ位置に太陽が来るのは10月12日と3月1日ごろ。この日に、水平線まではっきり見える快晴になればチャンスがあるといえます。撮影日、撮影場所、天候という偶然の要素が重なってこのような写真になりました。みなさんもぜひ偶然の面白シルエットにチャレンジしてみてくださいね。



〈広告〉



人が集うところに、コトブキのイスがあります。

星空と一体になるための、リクライニングシート。

K・O・T・O・B・U・K・I **コトブキシーティング株式会社**

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-2-1 <http://www.kotobuki-seating.co.jp>
サポートセンター TEL:0800-170-7111 FAX:0800-170-8222

★ イベントレポート

☆「子どもシゴセンジャーイラストコンテスト」表彰式

●9月22日(日)

「軌道星隊シゴセンジャー」が大好きな高校生以下を対象とした「子どもシゴセンジャーイラストコンテスト」を実施しました。総数42点の応募があり、9月22日に表彰式が行われました。シゴセンジャーやブラック星博士から表彰状や記念品の授与があり、楽しい表彰式となりました。



(幼児の部:優勝作品)
宮崎 愛来 さん



(中学生の部:優勝作品)
野間 祐弥 さん



(小学生の部:優勝作品)
松田 唯那 さん



表彰式の様子



(高校生の部:優勝作品)
寺本 純平 さん

☆シゴセンジャーファンクラブイベント

●9月29日(日)

シゴセンジャーファンクラブのイベントがありました。このファンクラブのイベントを最後に、シゴセンジャーピンク・イエローは、再び宇宙へ旅立ちました。2人の思いは、シゴセンジャーグリーンに託され、ブラック星博士や新たに登場した子分と熱い戦いを繰り広げることでしょう。

ぜひ、キッズプラネタリウム「軌道星隊シゴセンジャー」に応援に来てください!

プレゼントコーナー 【締切】平成25年1月27日(月)必着

天文科学館ペアチケット 5組10名様に当たる!

特集「2014年の天文現象」をはじめとする今号はいかがでしたか? 次号もどうぞお楽しみに!!

プレゼントの応募方法

★本誌に関するご意見・ご感想などを、住所、氏名をご記入の上、ハガキまたはFAXでお送りください。★プレゼントの当選は発送をもってかえさせていただきます。★応募者多数の場合は、抽選となります。

宛先

明石市人丸町2-6
明石市立天文科学館
「星空のレシビ 316号」
プレゼント係

おもて

〒673-0187

② 住所

③ 氏名

うら (FAXはうらのみ)

「星空のレシビ」316号の感想を書いてプレゼントに応募しよう! FAXの場合は **078-919-6000** まで

☆プラネタリウム生誕90周年記念事業

「全国カールツァイス・プラネタリウム巡り」認定証授与式

●10月13日(日)

今年、1923年にプラネタリウムが誕生してから90周年となります。これを記念し、日本国内のカールツァイス社のプラネタリウムを有する館が協力して「全国カールツァイス・プラネタリウム巡り」を実施しています。2013年4月27日から始まり、10月13日までに7名の達成者が誕生しました。そのうち4名の方の認定証授与式が、天文科学館で行われ、長寿日本カールツァイス・プラネタリウムの前で、認定書が授与されました。

イベントは、2014年3月31日までの実施になります。みなさんもぜひご参加ください!



ツァイス巡り認定証授与式

☆ブラック星博士東海遠征

●10月13日(日)~14日(月・祝)

今年もブラック星博士が東海のプラネタリウムで大暴れしました。半田空の科学館、小牧中部公民館プラネタリウム、一宮地域文化広場が、寒いダジャレに会場の温度が下がったそうです。デジタルグラフィックアーティストKAGAYAさんも応援に駆け付けてくれました。



☆宇宙の日作品展表彰式

●10月20日(日)

宇宙に関する絵や作文を応募したところ、たくさんの方にご応募いただきました。10月20日に表彰式を行い、表彰状や記念品の授与がありました。みなさん、素敵な作品でした。



☆シゴセンジャー秋場所

●10月26日(土)~27日(日)

キッズプラネタリウムでシゴセンジャーグリーンとブラック星博士の子分が登場しました。新たに加わったシゴセンジャーグリーンとブラック星博士の子分の活躍をたくさんの方が見に来てくれました。



1月・2月のイベント案内



休館日のお知らせ	12月	1月	2月
赤文字：開館 青文字：休館 ○：臨時休館	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

天体観望会の申し込みについて

◆観望料 1人 300円 ◆電話番号 (078) 919-5000
◆申込方法 開催日の1ヶ月前から前日までに電話又はHPから申し込み下さい。 ◆定員 100名
代表者の氏名・参加人数・電話番号・駐車場の利用の有無をお知らせ下さい。駐車場ご利用の場合は別途200円必要です。

プラネタリウム一般投影

解説員が、その日の夜に見える星空と、期間ごとのテーマにそったおはなしをわかりやすく紹介します。

★2014年の天文現象 1月5日(日)～1月13日(月・祝)
2014年に観測できる天文現象を紹介します。
※1月5日(日)11:10～の回は、一般投影となります。
※1月14日～3月14日は、プラネタリウム座席取替え工事のためプラネタリウムはご覧いただけません。

特別展

★2014年全国カレンダー展
2013年12月14日(土)～1月13日(月・祝)
全国の企業や公共期間が発行する新年カレンダーや、各国大使館などから提供される世界のカレンダーなどを展示します。

★2014年の天文現象
1月18日(土)～2月2日(日)
2014年に観測できる天文現象を紹介します。

★ビューティフル・ユニバース展 2月8日(土)～3月23日(日)
宇宙にまつわる書籍や切手、科学技術の美しさをご紹介します。

★シゴセンジャー展 1月1日(水・祝)～1月13日(月・祝)
シゴセンジャーをもっと好きになる特別展。



その他のイベント

★軌道星隊シゴセンジャー「初場所」
キッズプラネタリウムにシゴセンジャーが登場! シゴセンジャーグリーンとブラック星博士の子分が大活躍!
1月11日(土)・12日(日)・13日(月・祝)
・キッズプラネタリウム(午前11時10分～12時)
・てんもんクイズラリー
「シゴセンジャー&ブラック星博士のクイズに挑戦」
・シゴセンジャー工作 など

★座席取替えスペシャル企画「現座席ラスト投影」
1月13日(月・祝)15時50分
現座席のラスト投影を見ませんか? 今回に限り座席指定の予約を行います。ラスト投影を見た方には、座席プレートをプレゼントします(後日郵送)。
予約受付:平成25年12月15日(日)～平成26年1月13日(月・祝)
予約方法:天文科学館にご来館の上、受付で座席を指定して申し込んでください。



★シゴセンジャー巡業場所
開館期間: 2月11日(火・祝)10時30分～12時
会場: 生涯学習センター9F・子午線ホール
内容: 2月の星空のお話 他
参加費: 無料
参加方法: 当日受付

★山崎直子宇宙飛行士講演会「宇宙、人、夢をつなぐ」
開催日時: 2月16日(日) 14時～15時30分
会場: アワーズホール(明石市民会館・大ホール)
講師: 山崎 直子
参加費: 無料
定員: 1,000名
参加方法: ハガキもしくは、ホームページより事前申込。応募多数の場合は抽選。(1月27日(月)／申込締切(必着))

お知らせ

★お正月開館についてのお知らせ
天文科学館は、お正月から開館します!
※プラネタリウムは、30分の特別投影となります。
※1月1日(水)～3日(金)は、駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

「今夜の星空」
その日の夜は、どんな星空が見えるのでしょうか? 冬の星や星座をご紹介します。
開館期間: 1月1日(水・祝)～4日(土)
開館時間: 11時～15時(最終入館は14時30分)
投影開始時刻: ①11:30～ ②13:00～ ③14:10～
入館料: 大人700円 → 500円(高校生以下無料!)



★プラネタリウム座席取替え工事についてのお知らせ
1月14日～3月14日は、プラネタリウム座席取替え工事のためプラネタリウムはご覧いただけません。
※常設展示室・特別展示室等は、通常通りご覧いただけます。
入館料: 大人700円 → 350円(高校生以下無料!)

★2月の土曜日は夜間延長して天体観望会を行います。
日時: 2月1日・8日・15日・22日
時間: 18時～19時(最終入館は18時30分)
参加費: 入館料のみ
参加方法: 直接ご来館下さい。
※天候によっては星が見えないことがあります。

★プラ寝ころがりウム
2月1日(土)・2月2日(日)の各回は、座席なしの投影をします。往復ハガキに、住所・氏名・電話番号・希望の日・投影時間(①9:50～②11:10～③13:10～④14:30～⑤15:50～)を記入の上、1月6日(月)必着で天文科学館まで申し込んで下さい。各回60名(応募者多数の場合抽選)
参加費: 入館料+350円

12月	1月	2月
12月1日(日)～12月24日(火) 「古典にあらわれた星」 ～12月23日(月・祝) 「クリスマスアワー」	1月1日(水)～1月4日(土) 「今夜の星空」 1月5日(日)～1月13日(月・祝) 「2014年の天文現象」 1月18日(土)～2月2日(日) 「2014年全国カレンダー展」 1月1日(水・祝)～1月13日(月・祝) 「シゴセンジャー展」 12月21日(土)【前売券制】 18:30開演(18:00開場) 「クリスマスコンサート」 12月21日(土)9:50～10:40【事前申込なし】 「2014年の天文現象」 1月11日(土)～13日(月・祝) 「シゴセンジャー初場所」	2月16日(日)14:00～15:30【事前申込み】 「山崎直子さん講演会」 会場: 明石市民会館 大ホール 2月8日(土)～3月23日(日) 「ビューティフル・ユニバース展」 2月1日(土)・2月2日(日) 「プラ寝ころがりウム」 定員(各回60名) 2月11日(火・祝) 10:30～12:00 「シゴセンジャー巡業場所」 会場: 子午線ホール 生涯学習センター9F

学校・園と力を合わせてこんなことをしています!

天文科学館では、子どもたちの「夢」と「学び」を育むために学校・園と連携した事業や研修会を実施しています。その取り組みをご紹介します。

特別展「夏休み児童生徒作品展(9月14日～10月14日)」

9月14日～10月14日の期間、市内児童生徒が夏休みに頑張った作品を展示しました。

展示① 市内小学校自由研究作品展(9月14日～9月26日)
市内小学校のうち、王子、貴崎、高丘東、山手、谷八木、二見北の6校の作品を、特別展示室で展示しました。理科の作品に限定せずに作品を出してもらいました。小学生らしい楽しい発想の作品が多くありました。

展示② 市内市立中学校理科自由研究作品展(9月14日～9月26日)
市内13市立中学校から各校で選ばれた作品を、特別展示室と14階展望室で展示しました。どの作品も細かいところまでこだわった力作ぞろいでした。



暑い夏の日、外で実験調査をしたり、自転車で観測データを集め回ったり...一つひとつの作品を見ると、子どもたちが一生懸命取り組んだ様子が目に浮かびます。また、作品を展示するのに協力して下さいました学校の先生方、ありがとうございました。今後も学校・園との結びつきを持てるような取り組みをしていきます。